

【国際学会（The 18th European College of Sport Science; ECSS）活動報告書】

I. 学会概要

European College of Sport Science (ECSS: ヨーロッパスポーツ科学会議)は1995年に発足し、今年で18回目をむかえる。その理念は、スポーツ競技の向上のみならず、健康の維持・増進や社会づくりを目指しており、生理学、生化学、バイオメカニクス、心理学、コーチング、社会学、教育学、スポーツ医学、リハビリテーション、アダプテッドスポーツなどスポーツに関する様々な分野からなる学際的な学会である。

本学会は、ヨーロッパを中心としたスポーツ科学の研究成果が集結されるが、ヨーロッパにとどまらず世界各国から多くの研究者が参加している。日本からも多数の研究者が参加している。

II. 開催概要

開催期日：6月26日～6月29日

開催地：The National Institute of Physical Education of Catalonia, INEFC
Barcelona, Spain

発表者：

赤澤暢彦 体育系・BAMIS 研究員

セッション名：Health and Fitness

発表演題：Aerobic exercise training lowers cerebral pulsatility index after acute aerobic exercise in middle-aged and older women

III. 大会概要

会場であるINEFCは、1992年バルセロナオリンピックの競技会場に併設されており、バルセロナ（カタルーニャ地方）のスポーツ科学の拠点である。今大会は約3000人以上の参加者があり、規模の大きさがうかがえた。

報告者は、「Health and Fitness（健康と体力）」のセッションにてミニオーラル形式（発表2分、質疑応答2分）で研究発表を行った。一過性運動後の脳血流動態の変化に及ぼす運動トレーニングの影響について報告し、わずかな時間であったが、脳血流動態の意義について議論された。近年、脳循環の研究は世界で著しく発展しており、今回の国際学会参加は、今後の研究に活かせる有意義なものとなった。



発表する報告者（右）



学会会場（The National Institute of Physical Education of Catalonia, INEFC）